

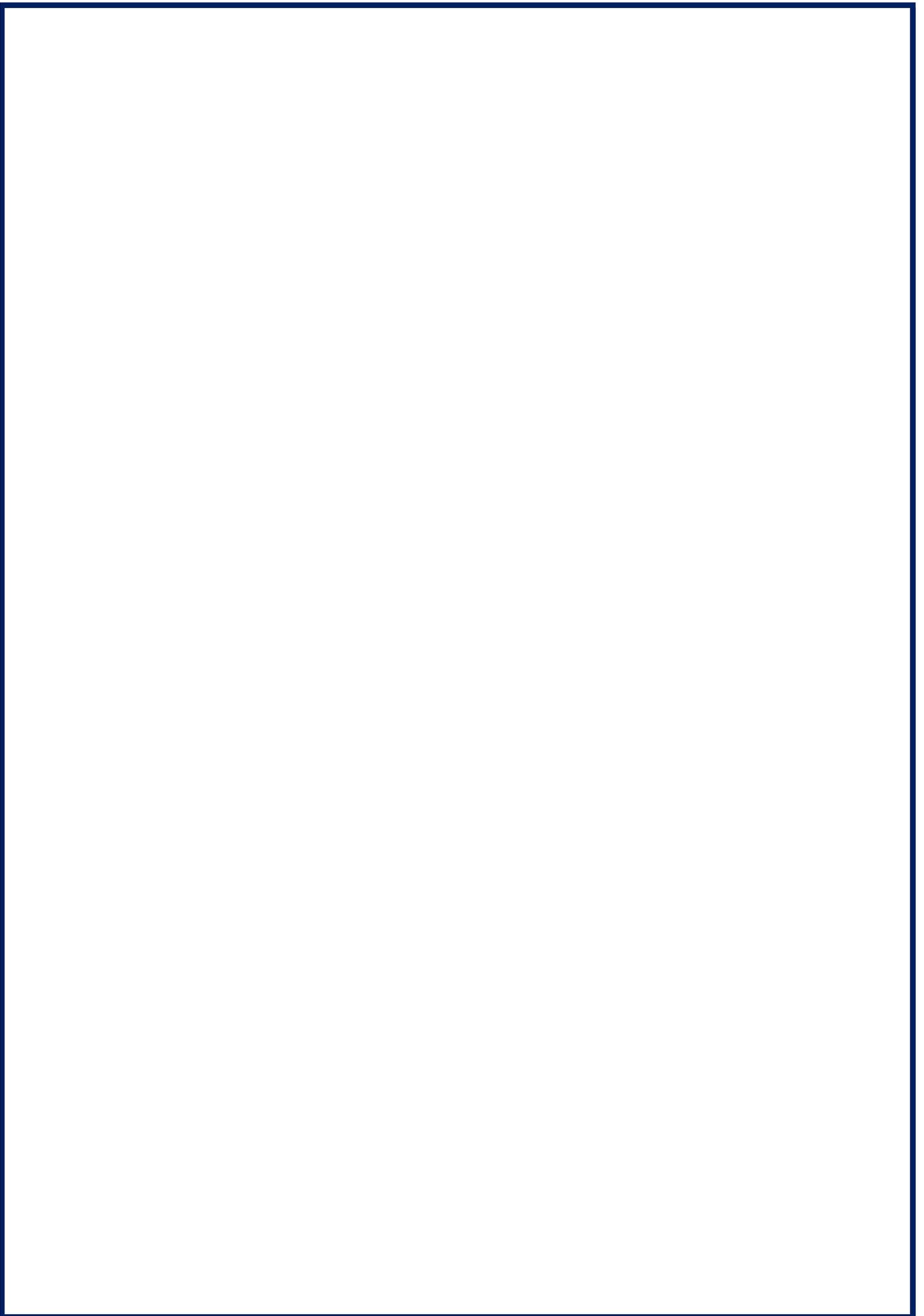
令和3年度 大阪府新学力テスト

(愛称:小学生すくすくウォッチ)

結果について

東大阪市教育委員会

学校教育部 学校教育推進室



令和3年度 大阪府新学力テスト(愛称:小学生すくすくウォッチ)結果について

東大阪市教育委員会 学校教育部 学校教育推進室

◇調査の目的

子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。

◇実施内容・実施期間及び実施人数

実施内容	5年生：国語・算数・理科・わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート 6年生：わくわく問題(教科横断型問題)・アンケート 教職員：アンケート
実施期間	令和3年5月26日(水)～令和3年6月2日(水)
実施人数	5年生：3,558名 / 6年生：3,649名 / 合計：7,207名

◇わくわく問題(教科横断型問題)・各教科及びアンケートの内容

《わくわく問題(教科横断型問題)について》(5,6年生共通問題)

- 特定の教科の枠にとらわれず、複数の文章や資料から情報を読み取ったり、問いに対して判断の根拠や理由を明確にして自身の考えを表現したりする力を問う問題等
- 日常の活動や現代的な諸課題(SDGs・プログラミング的思考)等をテーマとして、文章やグラフ等の様々な資料を題材に、資料を読み取ったり、自分の考えを表現する力を問う問題
- 答えが一つでない問いもある

《各教科について》

【国語】【算数】【理科】

- 4年生までの学習内容から出題
- 当該学年までに定着すべき学習内容で、基礎的な知識及び技能とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を問う問題等
- 言語能力・読解力の基盤となる基礎的基本的な言葉等の理解や文章に書かれている意味を正確に捉える力(リーディングスキル)など

《アンケートについて》

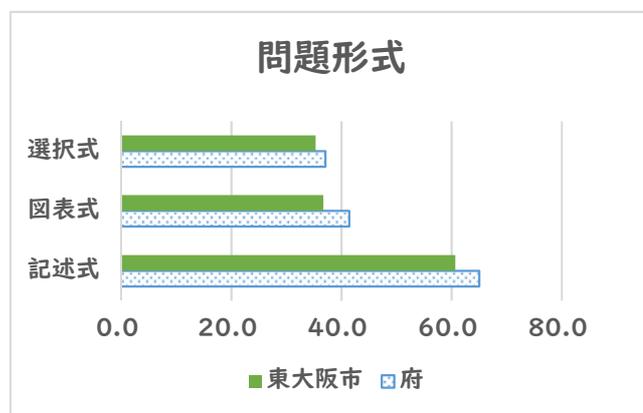
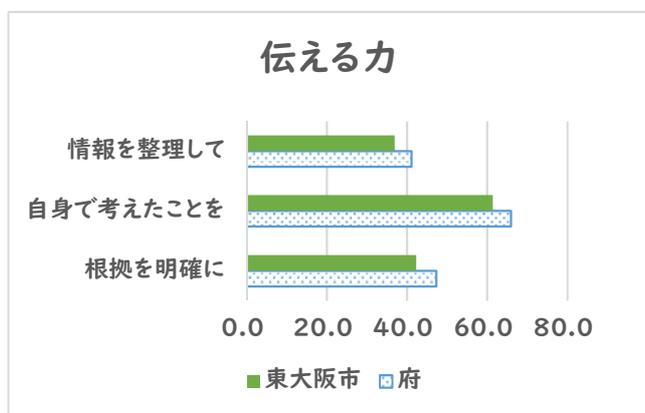
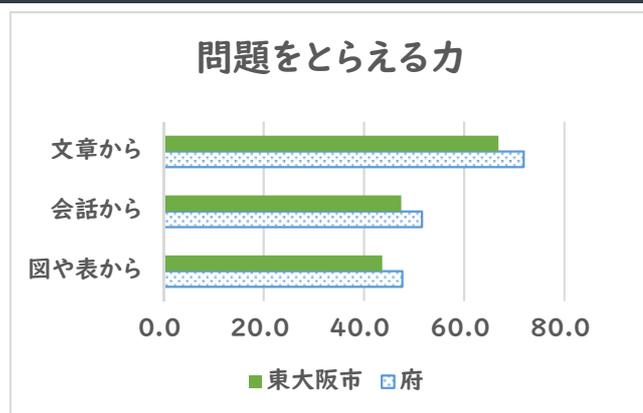
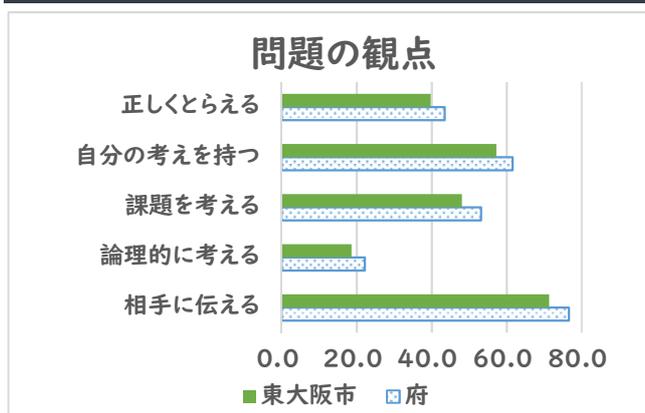
- 児童自身の未来に向かう力(目標に向かって頑張る力、気持ちをコントロールする力、人と関わる力)、次の学びや生活にいかす力等に関する内容や、学習状況、学級や授業等に関する意識等
- 家庭での様子などについて

わくわく問題

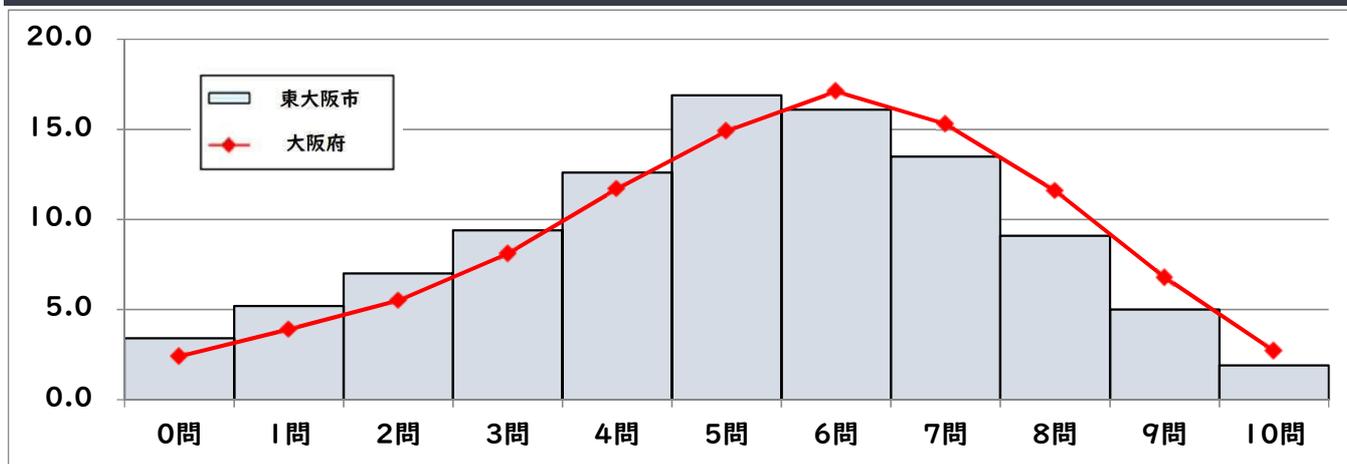
- 問題の観点では、内容を関連付けて、「新たな課題を考える」観点の正答率の差（5年生から6年生）が最大となっている。
- 問題の観点では、図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、「論理的に考える」（プログラミング的思考）に課題がある。

【5年生平均正答率】	東大阪市 51.0 %	大阪府 55.1 %
【6年生平均正答率】	東大阪市 60.4 %	大阪府 65.1 %

（5年生）問題の観点・問題をとらえる力・伝える力・問題形式の平均正答率

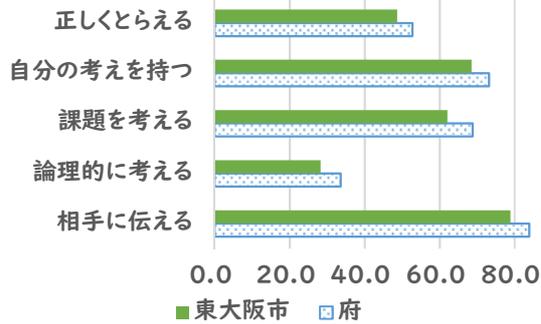


（5年生）正答数分布

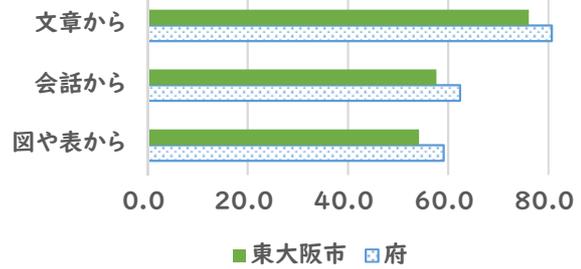


(6年生) 問題の観点・問題をとらえる力・伝える力・問題形式の平均正答率

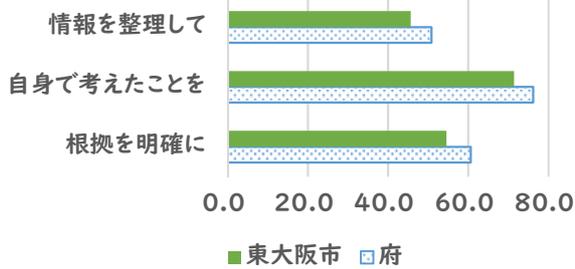
問題の観点



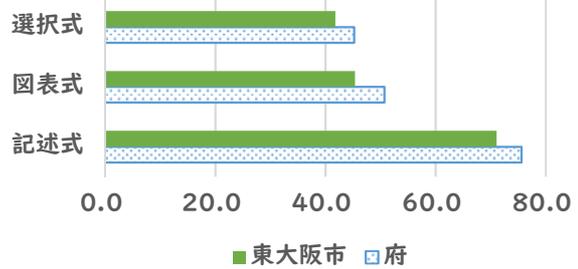
問題をとらえる力



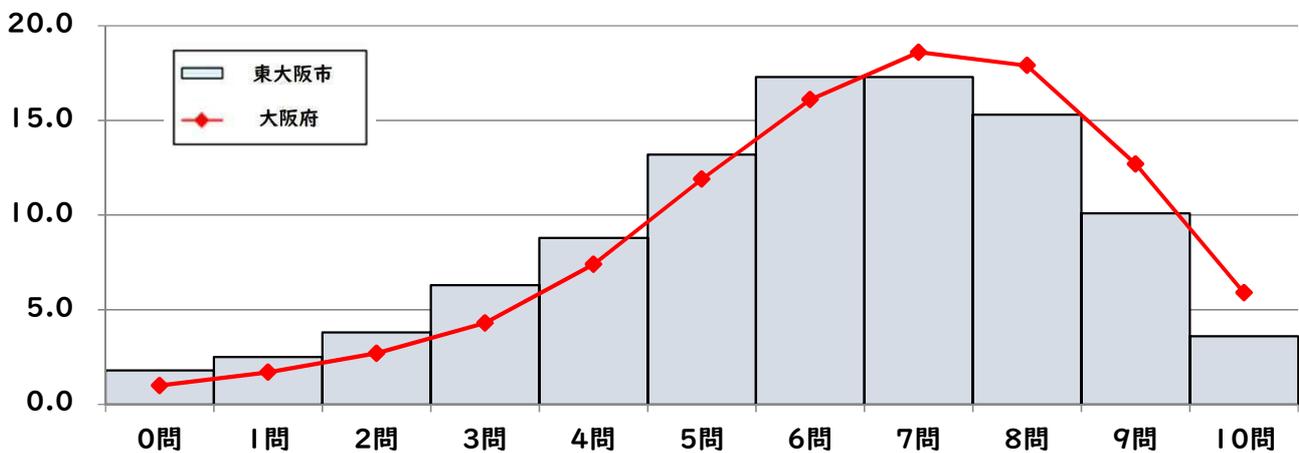
伝える力



問題形式



(6年生) 正答数分布



5・6年生のグラフから

- 5年生、6年生ともに論理的に考える問題や情報を整理して伝える力に課題がみられる。
- 選択式の問題は1問、記述式の問題は6問出題され、記述式の正答率よりも選択式の正答率の方が低い結果となった。

《平均正答率の低い問題形式(選択式)の問題》 大問1.(1)

① はるとさんのクラスでは、給食調理員さんから次のような話を聞きました。

- ・給食の食べ残しはゴミとしてすてなければなりません。
- ・食べることができるのにすてられてしまう食品を「食品ロス」とよびます。
- ・日本は「食品ロス」の量が多く、世界で6位、アジアでは1位になっています。

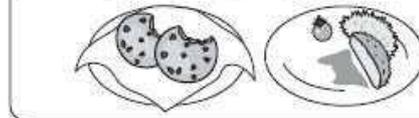
〈食べ物に関わるゴミ〉

食べることができないもの



食べることができるもの

食品ロス



給食調理員さんから話を聞いたあと、「食品ロス」の問題についてグループで調べ、発表することになりました。

はるとさんのグループでは、日本で1年間にどのくらいの食品がすてられているのかを調べたところ、次の資料1を見つけました。

資料1 【お店(スーパーや飲食店など)や家庭から出る食べ物に関わるゴミの量とそのうちの食品ロスの量】

	平成28年	平成29年
<p>お店</p>	<p>食べ物に関わるゴミ 1970 万トン</p> <p>そのうち食品ロス 352 万トン</p>	<p>食べ物に関わるゴミ 1767 万トン</p> <p>そのうち食品ロス 328 万トン</p>
<p>家庭</p>	<p>食べ物に関わるゴミ 789 万トン</p> <p>そのうち食品ロス 291 万トン</p>	<p>食べ物に関わるゴミ 783 万トン</p> <p>そのうち食品ロス 284 万トン</p>

…食べることができないもの …食べることができるもの

(1) 資料1からわかることとして正しいものを次のアからエまでの中から1つ選びましょう。

ア 家庭から出る食べ物に関わるゴミの量は、平成28年から平成29年の1年で7万トンへっている。

正答

イ お店と家庭の食品ロスの量の合計は、平成28年から平成29年の1年で、30万トン以上へっている。

ウ 平成28年に家庭から出る食べ物に関わるゴミの量のうち、400万トン以上が食べることができる食品である。

エ 平成29年にお店と家庭から出る食べ物に関わるゴミの量の合計のうち、食品ロスの量は半分以上である。

○ 問題の観点

図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる。

○ 考えるための技法

「比較する」

○ 誤答で多かった回答と選択した割合【正答はイ】

ア (5年生:東大阪市 25.6%、大阪府 26.4%) (6年生:東大阪市 27.4%、大阪府 26.6%)

【課題】

・表やグラフなどの複数のデータを比較し、項目間の関係を読み取ること。

【指導改善のポイント】

・問題解決するために、データを分類整理し、データの特徴や傾向を読み取ることができるようにする指導の充実において、身の回りの事象について、その事象の因果関係や傾向を漠然と捉えるだけでなく、データに基づいて判断する問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことができるようにすることが重要。また、その際、目的に応じて、公平性の高いデータを集め、観点を決めて分類整理し、クリティカルシンキングできるようにすることが大切。

《大阪府との正答率の開きが大きい問題》 大問1.(3)

(3) はるとさんのグループでは、食品ロスについて発表するためにそれぞれが調べたことを、【調べカード】にまとめました。

【調べカード】

<p>調べたこと</p> <p>お店で食品ロスが起こる主な原因</p>	<p>調べたこと</p> <p>家庭で食品ロスが起こる原因とそれをへらす工夫</p>
<p>〈スーパー〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜など、見た目をきれいにするために、形を整えるとき切ったりけずったりする 売れ残って、安全に食べられる期間（消ひ期げん）がすぎる <p>〈飲食店〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 客が少ないと材料が残る 客の食べ残し 	<p>〈原因〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 作りすぎる 買いすぎる 食べ残す 使いきれない  <p>〈食品ロスをへらす工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 料理を作るときには、食べきれる量を作る 作りすぎたときには、冷とう庫に保ぞんして、別の日に食べる
<p>調べたこと</p> <p>すてられた食べ物のゆくえ</p> <p>・すてられた食べ物は、ゴミとしてもやされる</p> <p style="text-align: center;">↓ すると…</p> <p style="text-align: center;">にさんかたんそ</p> <p>・もやすと二酸化炭素が出る</p>  <p>〈二酸化炭素とは？〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 空気にくまれている気体 地球の気温を上げるこう果がある気体だと考えられている 	<p>調べたこと</p> <p>食べ物が自分たちのところにとどくまでで気づいたこと</p> <p>〈育てる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんの水や土地やひ料を使って、食べ物となる農作物を育てている  <p>⇒田畑を広げるために森林を切り開くこともある</p> <p>〈運ぶ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 作った場所（日本や外国のいろいろな産地）から、自動車や船を使って、お店や家に運ばれる  <p>⇒自動車や船を動かすと、二酸化炭素が出る</p>

はるとさんたちは【調べカード】を見ながら、発表に向けて話し合っています。



はると

いろいろな場面で、食べ物をむだにしているね。食品ロスをへらすように、みんなに伝えないといけないね。

そうだね、食品ロスをへらすことって大事だよ。あと、食品ロス以外にも問題が起こっていることに気づいたんだ。



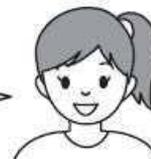
あきら



カルロス

本当だ！食品ロスをへらすことで、それ以外の問題もかい決しそうだね。

そのこともいっしょに発表しましょうよ。



ふゆみ

食品ロスを調べる中で、はるとさんたちが気づいた食品ロス以外の問題には、何があるか書きましょう。また、食品ロスをへらすことで、なぜその問題のかい決につながるのか、考えて書きましょう。

- 問題の観点
図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。
図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事गरらを考える。
- 考えるための技法
「関連付ける」、「具体化する」、「抽象化する」
- 誤答の分類として多かったもの
食品ロスに関連する問題を書いているが、なぜ問題が解決されるかの説明ができていない。

【指導改善のポイント】

・目的に応じて、文章と図表等などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導の充実には、文章中に用いられている図表等が文章のどの部分と結び付くのかを明らかにし、文章と図表などとの関係を捉えて読むことが重要。その上で、日常的に情報の取捨選択ができるように指導することが大切。

わくわく問題等

大阪府のホームページ上にウェブアップされています。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/index.html>



教科の結果と分析

教科問題

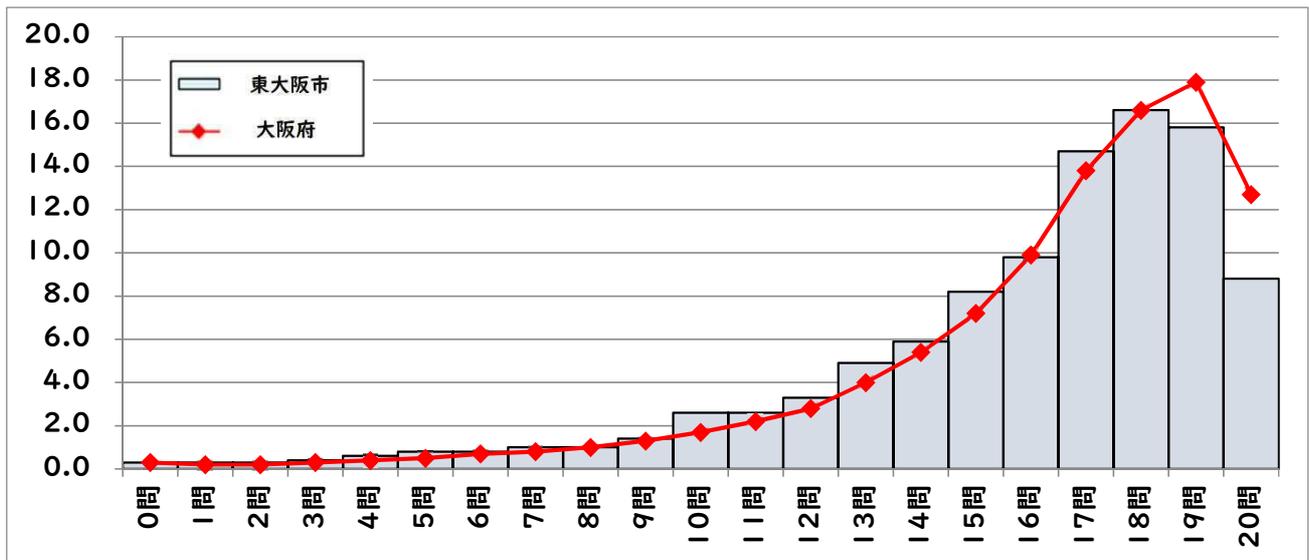
○教科問題では、国語の平均正答率が他の教科と比べ大阪府との差が最も小さい。

○理科の平均正答率が他の教科と比べ大阪府との差が最も大きい。

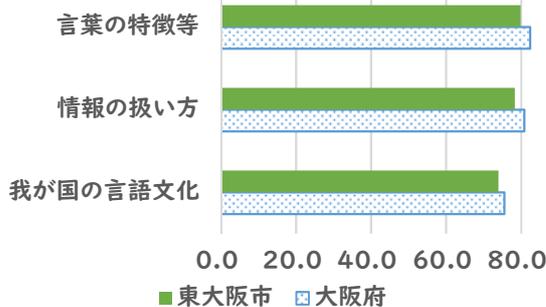
(大阪府との差) 国語:2.4% 算数3.2% 理科5.0%

【5年生国語平均正答率】 東大阪市 79.2% 大阪府 81.6%

●国語 正答数分布



学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式



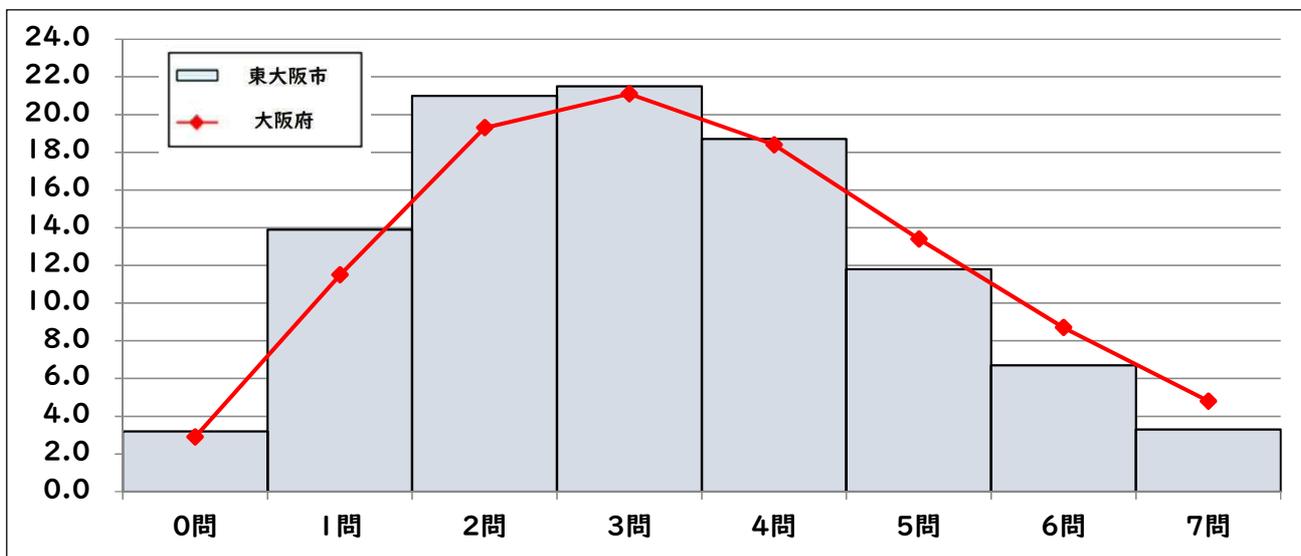
国語について

- 正答率の低かった問題・・・大問3(2)
東大阪市:74.5% 大阪府:63.3%
- 無回答率の高かった問題・・・大問4(1)
東大阪市:9.4% 大阪府:6.8%
- 全般的に大阪府との差は2%程度となっている

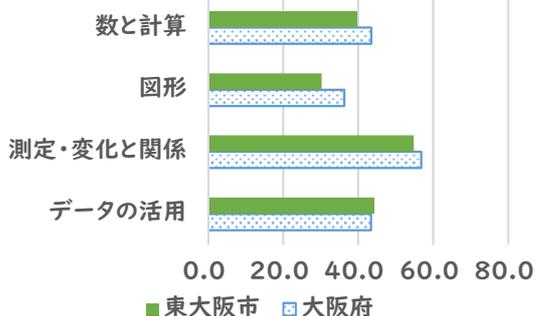
・算数や理科に比べて平均正答率が高く、大阪府との平均正答率にあまり差がない。評価の観点別においては、思考力・判断力・表現力等の育成のために自らを客観的に捉えることが大切。

【5年生算数平均正答率】 東大阪市 45.3 % 大阪府 48.5%

●算数 正答数分布



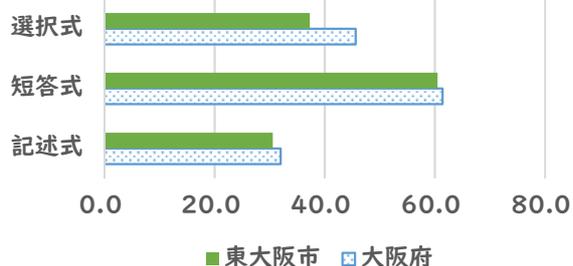
学習指導要領の内容



評価の観点



問題形式



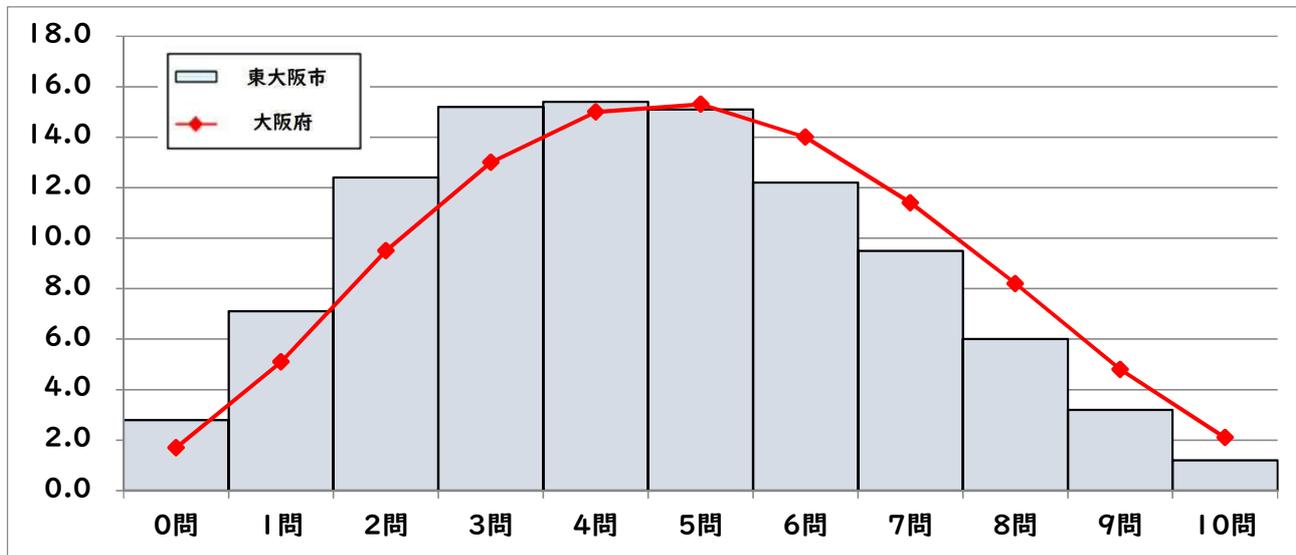
算数について

- 正答率の低かった問題・・・大問1(4)
東大阪市:16.7% 大阪府:20.6%
- 無回答率の高かった問題・・・大問2(2)
東大阪市:4.5% 大阪府:3.7%
- 学習指導要領の内容別では「データの活用」で大阪府の平均正答率を上回っている

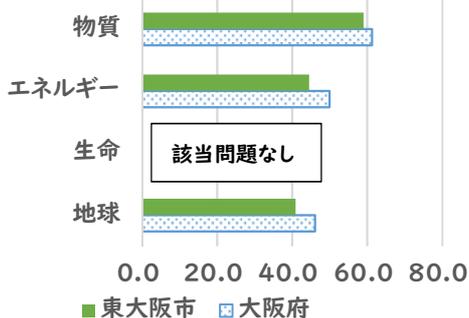
・学習指導要領の内容別では図形に課題がみられた。図形を構成する要素などに着目し、求積等のために必要な情報を選び出すことが大切。

【5年生理科平均正答率】 東大阪市 44.2% 大阪府 49.2%

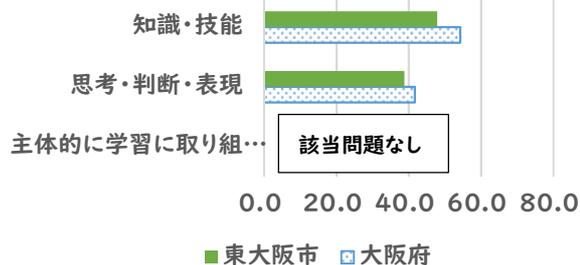
●理科 正答数分布



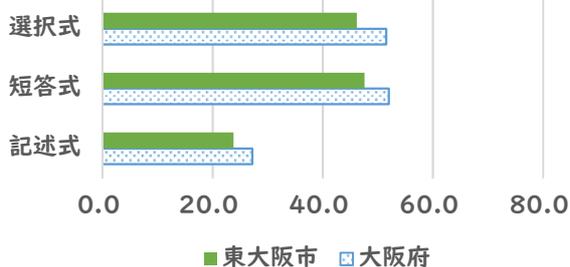
学習指導要領の内容



評価の観点



問題形式



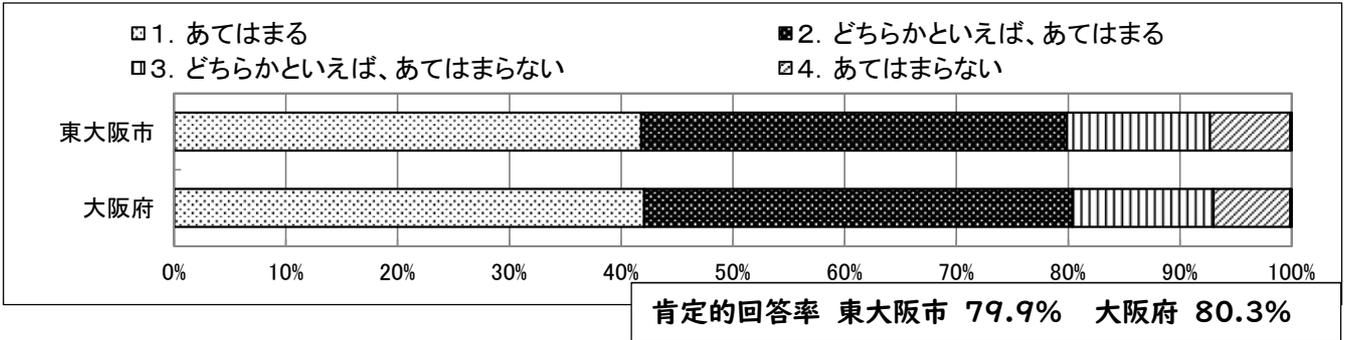
理科について

- 正答率の低かった問題・・・大問2(2)
東大阪市:11.5% 大阪府:14.6%
- 無回答率の高かった問題
大問2(1)
東大阪市:5.1% 大阪府:4.0%
大問2(5)
東大阪市:5.0% 大阪府:4.1%
- 評価の観点別では知識・技能の平均正答率が大阪府との差が一番大きい

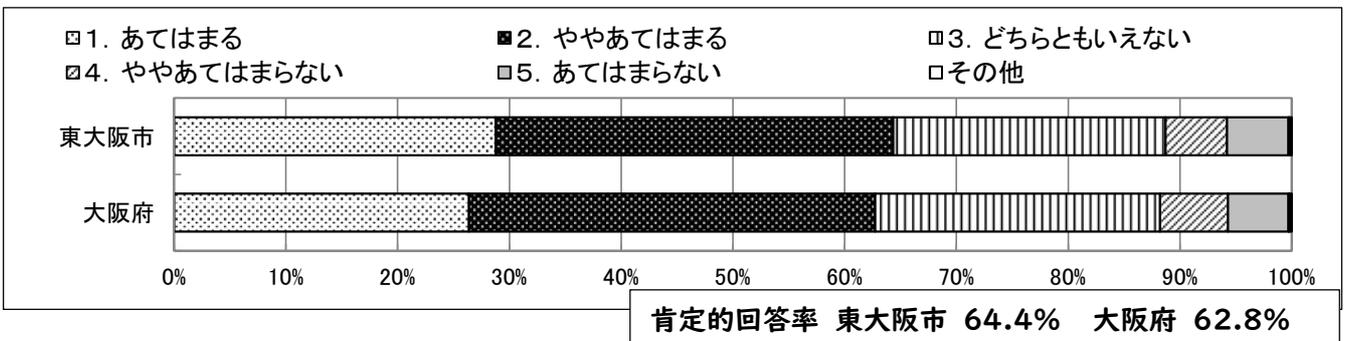
・問題形式別では算数に比べても記述式の平均正答率に特に課題がみられた。自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要のある場合などを自ら判断して書くことが大切。

児童アンケートより

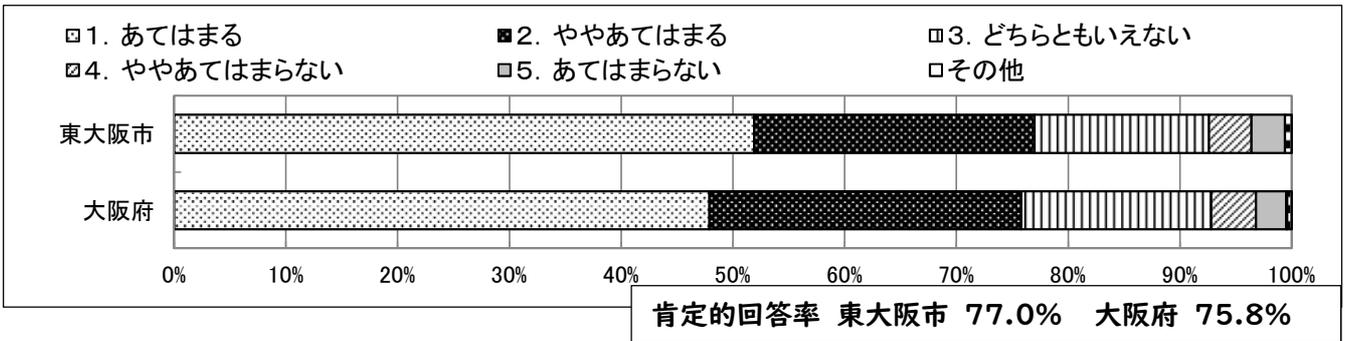
自分には、よいところがあると思う。



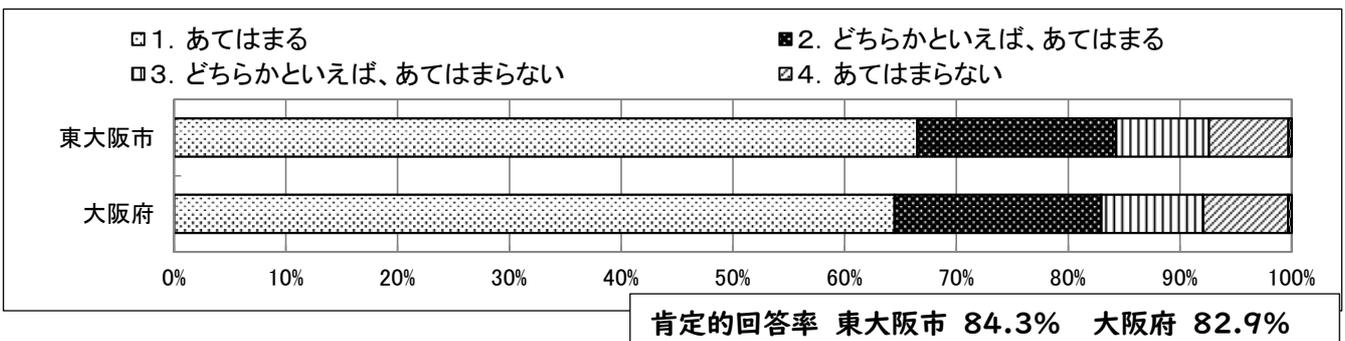
頑張り屋である。



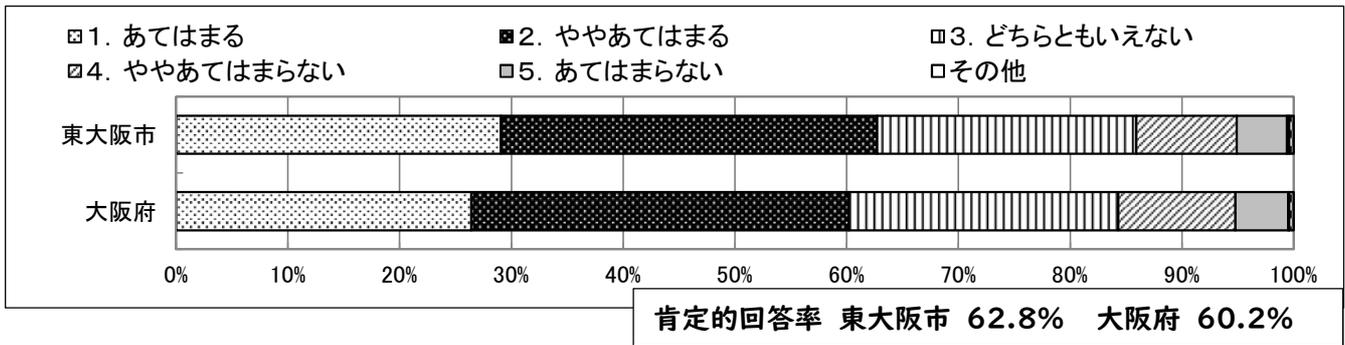
あなたの学級は、助け合って勉強している。



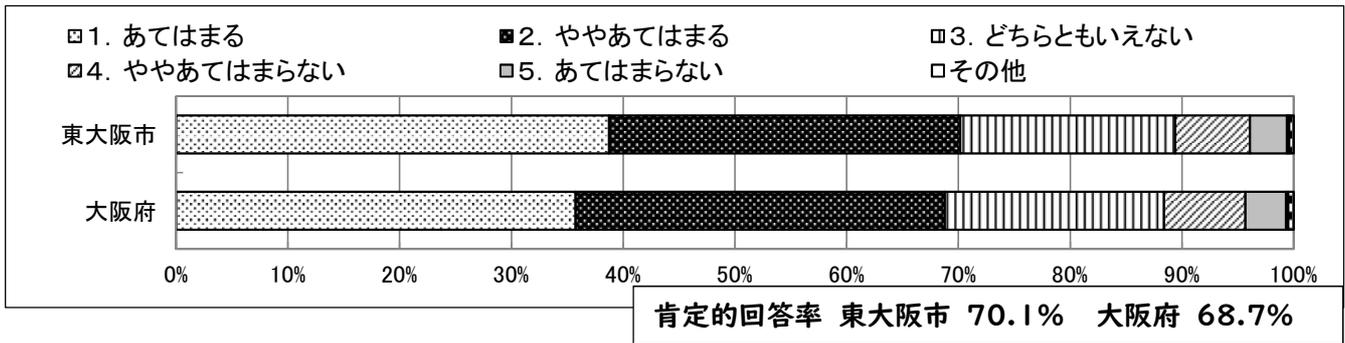
将来の夢や目標を持っていますか。



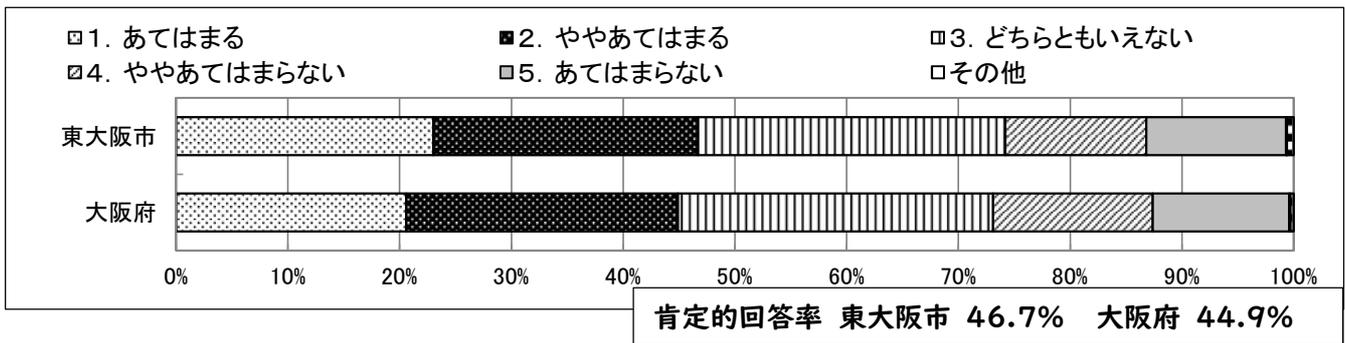
始めたことは、何がなんでも最後までやりきる。



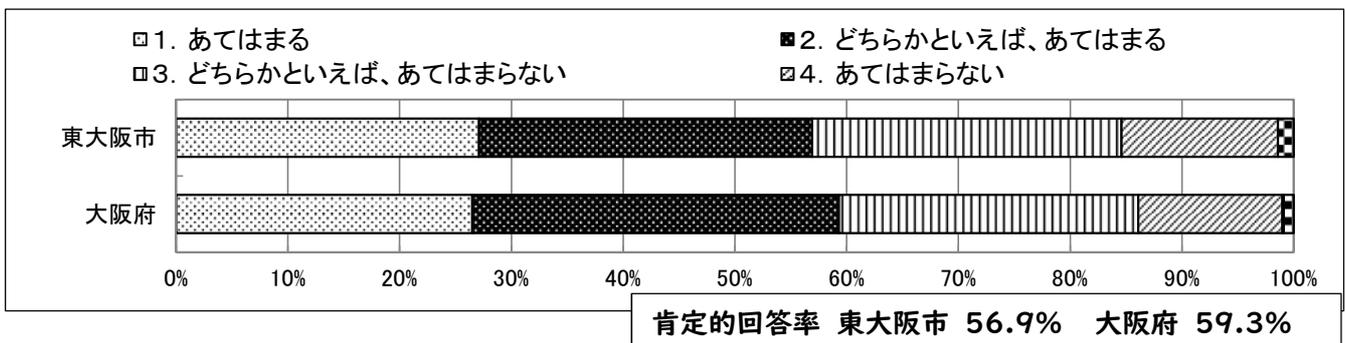
何事にも一生けんめい努力する。



今までやったことのない課題にもよろこんで取り組める。



話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている。



- 多くのアンケートで強い肯定の回答が大阪府の強い肯定を上回っており、東大阪市の子どもたちの前向きな結果が表れている。
- 子どもたちは今までやったことのない課題にも積極的に取り組み、自分の考えを深めたり、広げたりする意識があるので、将来の夢に向けて、最後までやりきる力を今後も伸ばす授業改善が求められている。